



IBD（炎症性腸疾患）

■ 病気の概要

腸粘膜に慢性的な炎症が起こり、消化吸収障害をきたす病気の総称です。リンパ球・形質細胞性腸炎（最多）・好酸球性腸炎などのタイプがあります。食物アレルギーや腸リンパ腫との鑑別のために、消化管内視鏡による生検が重要です。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・ 慢性的な嘔吐（週に複数回繰り返す）
- ・ 慢性的な下痢（軟便・水様便・血便）
- ・ 体重減少（食べているのに痩せる）
- ・ 食欲の変動（増加または低下）
- ・ 元気消失・活動性の低下

■ どんな検査をするの？

- ・ 血液検査（低アルブミン血症・B12 低下など）
- ・ 腹部超音波検査（腸壁の肥厚・リンパ節腫大）
- ・ 消化管内視鏡検査（鏡視下観察）
- ・ 腸管生検・病理検査（確定診断に重要）

■ 治療方法

内科治療

- ・ 食事療法（加水分解食または新奇蛋白食）
- ・ プレドニゾロン（免疫抑制剤）の内服
- ・ 免疫抑制薬（クロラムブシル・シクロスポリン）の内服
- ・ コバラミン（B12）補充注射（低値の場合）
- ・ 抗菌薬の内服（細菌過増殖の合併時）

外科治療

- ・ 腸リンパ腫との鑑別のための外科生検（まれ）

■ ご家庭で気をつけること

- ・ 食事管理の徹底（処方食の継続・急な食事変更は避ける）
- ・ 体重・便の状態の日々の記録
- ・ ストレスを極力避ける
- ・ 定期的な血液検査・診察
- ・ 投薬の確実な継続

■ よくある質問

Q. IBD と食物アレルギーはどう違いますか？

A. 症状は似ていますが原因が異なります。食事療法の反応を確認しながら、生検で鑑別します。

Q. 内視鏡検査は必要ですか？

A. IBD の確定診断と腸リンパ腫との鑑別に重要です。組織を採取するための検査です。

Q. 完治しますか？

A. 完治は難しく長期的な管理が必要ですが、適切な治療で多くの症例は良好にコントロールできます。

Q. リンパ腫と見分けがつかますか？

A. 生検・病理検査で鑑別します。治療法と予後が大きく異なるため、確実な診断が重要です。

■ なつ動物病院での診療について

消化管内視鏡検査から組織生検・病理診断・長期管理まで対応します。「慢性の嘔吐・下痢がなかなか治らない」場合はご相談ください。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください